



秋田県五城目町

みんなの町議会



目次

- 6月定例会の概要..... 2
- 陳情・請願／議会議員全員協議会..... 3
- 常任委員会の焦点..... 4～5
- 一般質問に6名登壇..... 6～12
- あれ なんとなったべが！..... 13
- 議会を傍聴しました・がんばってます... 14

No.151

2022年7月1日

町民の安全と安心を
支える消防訓練

将来を見すえ 国保税の引き上げへ



議会傍聴をする人も増えています。

6月定例会は6月6日から13日まで8日間の日程で開かれた。

初日 渡邊町長は行政報告で「令和元年度に大幅に国保税率を引き下げたことが、当初の見込みより基金が減少したこともあり、国保財政の運営が不安定とならないよう国保税率の引き上げを行う。」

コロナ禍における国による地方創生臨時交付金によって『オール五城目生活応援商品券事業』の実施に係わる必要経費を本定例会に計上。

脱炭素社会を目指し、地域資源を再生可能エネルギーとして有効活用する先進地への視察研修を行うための予算を計上。

8月に行う『きやどっこまつり』は、開催を前提に事業企画を模索。『秋田追分全国大会』については、開催時期を10月2日として規模を縮小し開催予定」と述べた。

2日目 一般質問には6名が登壇。移住定住対策・わーくるの運営・地元木材の活用・マイナンバーカード普及状況・町有施設の放送設備充実・県道4号道路整備・タブレット利用推進などの質問が行われた。

3日目～5日目 当局より、令和4年度一般会計補正予算案など12件の議案

と6件の報告が上程され、各常任委員会で審査した。

最終日 委員長報告のあと、全議案を可決・承認・報告済みとした。他に陳情4件を採択、1件を継続、委員会提出議案4件を可決、人事案件3件に同意し閉会した。

定例会で可決した 主な内容

五城目町あさひ台運動広場整備費	450万円
消防団小型動力ポンプ積載車4台購入費	2,314万円
ワクチン接種対策事業（4回目）	1,930万円
五城目町クラウドファンディング活用支援事業	200万円
子育て世帯生活支援特別給付金	412万円
オール五城目生活応援商品券事業	9,599万円
五小っ子みどりファーム（仮称）調査設計等委託料	57万円

（松浦 真）

議員研修報告

住民ニーズ把握のために

【研修名】

市町村議会研修「新人議員のための地方自治の基本」

【研修期間】 5月9日～13日

【研修先】

滋賀県大津市 全国市町村国際文化研修所

【参加議員】

工藤 政彦

五城目町固定資産評価審査 委員会委員の選定に同意

再任



八木下真全氏
(54歳) 築地町

再任



小玉 俊雄氏
(73歳) 北々口

新任



渡部 光人氏
(67歳) 大川4区

（松浦 真・工藤 政彦）

第2回

議会議員

全員協議会

令和4年5月20日

協議案件

・五城目小学校旧校舎跡地について

条例を制定し、使用期間を4月～11月とする

初年度は整備費450万円、次年度以降の維持費は年200万円

・国民健康保険税率改正について

今後の安定した国保財政運営のため保険税率を見直す

・五城目町消防団運営活動費補助金について

執行基準に基づき、適正な予算執行を行う

報告案件

・五城目町火葬場改修事業について
・固定資産税納税義務者の認定について
・新型コロナウイルス感染症緊急支援対策事業について
・森山管理道擁壁倒壊について

陳情と意見書

6月定例会で採択となった陳情を意見書を添えて関係機関に送付しました。

採択

◆国民の祝日「海の日」を7月20日に固定化する意見書の提出を求める陳情

陳情者

海事振興連盟

会長 衛藤征一郎 ほか 17名

意見書（抜粋）

国民が海の大切さを理解し、その恩恵に感謝し、海の安全及び環境保全について思いを馳せる機会とするためにも、「海の日」を当初の7月20日に固定化することを要望する。

意見書提出先

○内閣総理大臣

採択

◆女性トイレの維持及びその安心安全の確保についての陳情

陳情者

女性スペースを守る会

共同代表 飯野 香里 ほか 3名

意見書（抜粋）

一、厚生労働省は、所定の事業所トイレにおける大原則である「男性用と女性用に区別して設けること」につき、今後ともこれをくずさないようにされたい。
二、国は、公的な建物内、公衆便所や大規模小売店舗等の不特定多数が使うトイレにつき、女性トイレはすべからず維持し、またこれらト

イレにおいて、女性の安全安心という権利法益を守るべく諸方策をとられたい。

意見書提出先

○内閣総理大臣 ほか

採択

◆教職員定数改善と義務教育費国庫負担割合引き上げをはかるための、2023年度政府予算に係る意見書採択の陳情について

陳情者

秋田県教職員組合

執行委員長 櫻田 憂子

意見書提出先

○衆参両院議長 ほか

採択

◆地方財政の充実・強化を求める意見書提出に関する陳情

陳情団体

連合秋田男鹿潟上南秋地区連絡会

議長 太田 修

意見書提出先

○衆参両院議長 ほか

継続

◆沖縄を「捨て石」にしない安全保障政策を求める意見書の提出を求める陳情

陳情者

辺野古を止める！全国基地引き取り緊急連絡会 兵藤 知子

五小っ子みどり ファーム（仮称）始動



地域参加型活動の畑へ

※ビオトープとは、主に人工的につくられた水生生物の小さな環境のことを意味します。

五城目小学校では、職員駐車場に隣接する町所有の田畑を学校菜園として整備する。農業体験を通して生命や自然、環境や食物などに対する理解を深め、情操や生きる力を身に着けることを目的とする。

当局から「今年度中の完成を目指し、今回調査設計費57万円を計上する。*ビオトープとして水生生物を学ぶなどの学習活動にもつなげたい。9月補正予算で工事費を計上する」と説明があった。

委員から「整備においてはビオトープとしての活用や脱炭素といった発想も加え企画するなど、何らかの該当する補助金を模索してほしい。また、児童の関心を高めるために計画立案の段階から児童参加型で進めてほしい」「地域の畑の先生が関わることで、より効果の高い学習活動につながる」などの指摘があった。

教育民生 常任委員会

オール五城目生活応援 商品券発行



コロナ禍において、原油価格、電気料金を含む物価の高騰の影響を受ける町民の負担軽減と、町内経済の下支えをするため実施する。

令和4年6月1日時点で五城目町に住民票がある人を対象とし、約8,600人を見込んでいる。

対象者1人につき1万円分の商品券を発行する。1,000円券を7枚、500円券を6枚。商品券の発送は7月中旬まで8割方、お盆前には全世帯に発送の予定である。利用期間は商品券の発行から令和4年12月31日まで。

委員から「過去2回実施してみても課題と問題点は」と質疑があり、当局より「令和2年度は利用率97・43%、3年度は98・9%でかなり高い利用率となっており、使い方などの苦情もなかった。町内事業所に限ったことで町内経済の下支えができたと感じている。特に課題として捉えているところはない」と答弁があった。

総事業費9,599万円（地方創生臨時交付金6,547万円、一般財源3,052万円）

総務産業 常任委員会

あさひ台運動広場を設置

旧小学校跡地のグラウンドを健康増進や憩いの場として開放するため条例を制定した。「五城目町あさひ台運動広場」の名称や、多目的グラウンド・駐車場・その他付属の施設で構成されること、行為制限・禁止・監督処分・使用料・規則委任の規定などを定めた。

委員から「飲食は熊の出没につながる恐れがあると説明があったが、どう周知するか」と質疑があり、当局から「水分補給以外の飲食は控える注意看板を設置する。他に火気厳禁・近隣住民への配慮なども記載する」と答弁があった。



雑草に覆われた旧五小グラウンド（6月中旬撮影）



3年計画で導入予定の小型ポンプ積載車

消防団の実状に即した支援へ

消防団の活動に対し、昨年度から支給されていた補助金を見直し、新たに機能別団員の活動服や帽子の購入に充てる消耗品費などの予算が計上された。

委員から町の考えや姿勢を問う質疑があり、当局から「地域防災力を維持向上していくために消防団は必要な存在だ。運営・活動を支援していくのは町として重要な施策である」と答弁があった。

また小型動力ポンプ積載車が、購入から18年経過している。団員の安全性も考慮し、今年度は4台を購入して各分団へ配備する。3年計画により昨年度5台、来年度4台導入予定。

コミュニティ助成事業に2町内会と町消防団が採択

一般社団法人自治総合センターでは、宝くじの社会貢献広報事業として、地域づくりに対して助成を行い、地域のコミュニティ活動の充実・強化を図っている。

今年度、当町では、一般コミュニティ助成事業に浦横町町内会と岡本一区町内会、消防団育成事業に町消防団が採択さ

れた。

浦横町町内会と岡本一区町内会には、それぞれテント・エアコン・発電機・LED投光器・物置・リヤカーなど町内会の活動に必要な物品を整備するため各250万円の助成が行われる。また町消防団には活動服上下・帽子の購入に100万円の助成が行われる。

（石井 光雅）

第三セクター等経営健全化方針の策定

財政的なリスクがある第3セクターなどと関係有する地方自治体が、当該企業などの経営健全化のための方針を定めるものであり、当町では町が50%を出資している(株)あつたか五城目が該当する。

コロナ禍において五城館の宴会がほぼ行われなくなり債務超過に陥っており、令和2年8月に役員の刷新、経費がかさんでいた直営店パンの店あつたか小町を昨年閉店し、現在は指定管理者として五城館の運営のみ行っている。

町は所定の手順により検討し、「経営努力を行いつつ第3セクターなどで引き続き実施」することとし、収益確保に向けて新たな視点で積極的な取り組みを検討するよう働きかけていくこととした。

委員から「町と会社は今まで以上に風通しを良くし随時の報告と経営状態の把握、会社はこれまでに努力をしてい



(株)あつたか五城目が運営する五城館

実情をとらえた移住定住策を

町長 先進事例を参考にしてい

椎名 魁新聞で当町の移住定住の実情が連載され、課題が浮き彫りとなった。空き家のリフォームや家財処分の補助を拡充するなど、住める空き家を対策し、移住定住につなげていくべきではないか。

また、移住者、不動産業者、リフォームに関わる事業者との話し合いで、課題や解決策が見えてくるのではないか。

町長 移住定住世帯が居住する住宅リフォームには県・町補助併用で最大60万円、中古住宅購入後のリフォームでは90万円を上限とした手厚い補助をしている。家財処分には移住者を対象に上限5万円を補助している。

移住者や業者とは話し合わなくても連絡は取れる。

町長 先進事例を参考に、実情をとらえた移住定住施策を展開していく。

椎名 空き家を解体すると固定資産税が6倍になると聞えられ、解体が進んでいない。固定資産税の減免を検討できないか。

町長 住居を解体した場合、地方税法の小規模住宅用地の特例措置の適用がなくなるとのことと推測する。土地や家屋の所有状況によっては税額が安くなることもある。税に対する公平感を維持しつつ、移住定住に向けた対策に努めていく。

椎名 開室時間を早めて欲しいとの声が多く聞かれています。10時に開室することはできないか。また不特定多数の出入りがあり、安全対策は万全か。

教育長 6月からは平日午前10時30分から午後6時30分に開室時間を変更している。今

椎名 地域図書室わーくるが開室1年。建設に際し開かれたワークシヨップでは、町民からたくさん意見が寄せられ、「こじようめ未来ノート」にまとめられた。今後、その意見がどう生かされるのか。魅力的なわーくるにするため、考えはあるか。

教育長 1年間の利用者数は8,788人、貸出冊数は8,530冊。今年度は月ごとや季節ごとの企画・展示や講演会を予定している。また各地区公民館への図書返却、キッズコーナーの設置、蔵書の予約制など、本を手にするきっかけづくりを展開し、親しまれる地域図書室を目指している。



今後が楽しみな地域図書室わーくる

後の利用状況やアンケートなどで、利便性を高めていく。生涯学習課職員や体育館・町民センター管理人が巡回を行い、防犯対策として「さすまた」を設置した。小学校での避難訓練に参加し、隣接するすずむくらぶとも連携している。今後も安全対策、防災対策に十分努めていく。

あなたにかわって聞きました

一般質問



椎名 志保

椎名 高知県橋原町は町が空き家を借り上げ、改修し、安価に賃貸している。また町産材活用での新築には100万円、増改築には費用の50%、上限200万円を助成。太陽光発電、エコ給湯導入にも補助制度がある。先進地を視察し、参考にすべきだ。



学すべき好事例

より利用される「わーくる」へ

一般質問

6議員が登壇 我が町政を問う

一般質問とは？

- ・年4回の定例会において、議員が町政全般について現状や方針を問うものです。
- ・答弁を含む一人当たりの持ち時間は60分で、事前通告制が採用されています。
- ・質問をするかしないかは、議員個人の判断によります。

質問者

椎名 志保 議員

- 実情をとらえた移住定住策を
- 地域図書室わーくるの今後の運営について
- 社会福祉協議会との連携強化を
- コミュニティ生活圏形成事業の今後の取り組みは

荒川 滋 議員

- 平成23年11月1日施行の五城目産木材の利用促進に関する基本方針について
- 脱炭素社会実現に向けた取り組み
- 農家の所得向上に向けた取り組み
- 川原町・新町地区地盤地下と馬場目川の関係
- 朝市500年記念マラソン大会
- 行政報告について

畑澤 洋子 議員

- マイナンバーカード普及状況とその促進について
- 公共施設の男性トイレの充実と災害時備蓄トイレも充実を
- 認知症のひと、ご家族を一体で支援する施策を前向きに
- 道路の穴ぼこ（ポットホール）町民が見つけたらスマホで送信できるシステムの採用を

斎藤 晋 議員

- 町の施設「五城館」「町民センター」の放送設備・施設の充実を
- 街並みに活気を・街並みを明るく
- 町が主導し町民に協力してもらい実施する事業やイベントは無い
- 人口減・少子高齢化の我が町の将来構想は

工藤 政彦 議員

- 県道4号主要地方道能代五城目線の道路整備について
- 火の見櫓の老朽化に伴う危険性について
- 土砂災害特別警戒区域への対応について
- 街並みの景観について

松浦 真 議員

- タブレット利用の現状と今後に向けて
- 太陽光パネルなどの設置に条例を
- 除雪会議の透明化へ
- 小学校跡地活用、森山観光資源化に向けた民間の意見を集めた会議体設立を
- 救急車で秋田市内への搬送時間は平均何分か。また、多重発生する際はどのようにしているのか。

* 誌面の関係上掲載できなかった●印の質問については、町ホームページにて議会映像を配信しておりますのでそちらをご覧ください。

五城目町議会映像配信 www.gojome-town.stream.jfit.co.jp



意義ある発言機会は大事な議員活動の場といえます。議会を傍聴してみませんか？

傍聴の手順をご紹介します。事前連絡は不要です。

①役場4階へ上がります。
(エレベーターをご利用ください)



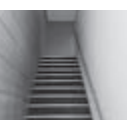
②議会事務局前で受け付け。
(受付表に必要事項を記入
検温と手指の消毒剤あります)



④町の方向性を直接聞くことができます。
(開会中はお静かに願います)



③階段で傍聴席へ。(定員40名)
(現在は、コロナ禍において
定員15名としています。)



※新型コロナウイルス感染拡大の防止および、傍聴される皆様の健康を守る観点から、傍聴を自粛いただく場合がございます。 お問い合わせ先 議会事務局 018-852-5411

(工藤 政彦)

マイナンバーカード 普及促進策は

町長 期日前投票所でカードを作れる

畑澤 マイナンバーカードは今年12月末まで、日本に住む全員に行きわたらせる目標があり、出張申請を始めた自治体がある。各施設で写真撮影と申し込みの支援をして、後日カードが自宅に郵送される仕組みだ。マイナンバーが導入された理由は「障害者・子供・高齢者に各種給付金が申請しなくても給付されること。行政の効率化。公平公正な社会の実現。行政サービスの需給状況を把握しやすくなり、本当に困っている人によりきめ細やかな支援が出来る体制が進む」など。これからの税と社会保障を考えていく上でカードが普及しないと今後の足かせになり後れを取る。

町長 マイナンバーカードの交付状況は5月1日現在29・3%と県交付枚数率よりやや下回っている。普及のため住

あなたにかわって
聞きました
一般質問



畑澤 洋子
(公明党)

**公共施設の男性
トイレと災害時
備蓄トイレの充
実を**

畑澤 男性に多い膀胱がん・前立腺がんの手術後は排尿のコントロールが難しい。社会



申請しないとほじまらない

民生活課窓口で写真と申請までをサポートしている。これまで役場庁舎内の申告会場で申請交付を行った。今後、期日前投票所での出張申請を予定しているが、郵便交付も住民サービスの一環として考えていく。



サニタリーボックス設置が急務

には尿漏れパッドを使わざるを得ない人が一定数いる。男性トイレの個室には汚物入れ（サニタリーボックス）が設置されていることはほとんどなく、処理に困りトイレに流し詰まるなどのトラブルも多くなっている。やむをえず持ち帰る男性も少なくない。

また、災害時の避難所にオストメイト（人工肛門や人工膀胱増設者）専用の簡易トイレの備蓄も必要だ。人目が気にならない専用トイレの準備を。

町長 埼玉県内では公共施設へのサニタリーボックスの設置が広まり全国にも需要が高まっている。予算措置し対応

に説明される予定。

荒川 河川の土砂除去（浚渫）と雑木伐採の県への働きかけ強化を。

町長 馬場目川は緊急浚渫推進事業河川であるが、今年度、県は優先度が高い他の河川に着手する予定とのこと。今後、随時河川の状態を県に通報し優先度を高めるよう働きかけしていく。

荒川 川原町の地盤沈下は流雪溝への土砂吸出しの影響もあるのではないかと。

町長 流雪溝内部の継ぎ目の確認をした結果、目地からの土砂等の吸出しはなかった。県の空洞化調査の結果を精査し、住民の方の不安が解消されるよう堤防変状と地盤沈下の原因究明を急ぐ。



ラインアプリを活用

**道路の穴ぼこ
画像で送信**

畑澤 雪解け後の道路破損は対向車への注意が散漫になる。町内会からの通報に加え、個人からの情報提供にラインを活用した画像送信で迅速な対応を。

町長 ラインセキュリティの問題は解決されたことを受け、試験運用に向け準備する。

する。町では備蓄品に2,400回分の携帯トイレ、マンホールトイレ3基を確保している。オストメイト用は準備していないが、避難所のトイレ確保は重要な課題であり必要不可欠なものであることから、必要な個数を備蓄する。

木質バイオ活用で 脱炭素化の推進を

町長 エリアを決めて推進していく



地元産木材の活用で地域の活性化を

荒川 雇用の減少が続く中、林業には大きな可能性がある。補助制度、木質バイオマス活用、イメージ戦略など積極的な施策で地元産木材活用と林業の振興を。

町長 木質バイオオを含む再生可能エネルギーの導入を検討している。また、木材加工事業者と連携し造林から素材生産、販売を好循環にして雇用の創出につなげたい。

あなたにかわって
聞きました
一般質問



荒川 滋

荒川 小池町、川原町、新町周辺の川沿いで起きている地盤沈下。県が行った調査の結果は。

町長 県は空洞化調査をこの春に行った。リーダー探査の調査結果がまとまり次第、町



地盤沈下が起きている馬城橋西岸地域

**馬場目川沿いの
地盤沈下への対応**

荒川 新総合発展計画、基本目標1の脱炭素化をどう進めるか。

町長 町には環境保全に関する条例、計画などがないためまずはそれらの整備を、そして再生可能エネルギーへの取り組みは地域の実情に合わせエリアを決めて推進する。

**森山管理道路復旧
のために**

荒川 森山を大切な観光資源と思うのであれば、事業者任せにせず、町が直接着手すべきでは。

町長 昭和40年に締結した契約にのっとり、早急に協議の場を設けるよう通信事業者に働きかける。

**朝市マラソン大会
継続できないか**

荒川 平成6年に始まり県外からの参加者が多い朝市マラソン。今年は開催するか。

教育長 過去2年間コロナの影響で中止だった。コロナ収束の見通しや人材確保困難などから今後の開催を断念することになった。

荒川 町による継続は無理なのか。

教育長 今後、町と地域の団体で共同に取り組めるような大会が企画立案、提唱され、運営と協力体制が整った場合は町として支援していく。



大きな意義があった朝市マラソン（2019年撮影）

県道4号線「内川地区」の整備促進を

あなたにかわって
聞きました
一般質問

町長 要望活動を継続する

町長 道路敷地外の用地確保が必要。隣接する民家敷の同意が得られるか確認したい。令和3年度から能代五城目線湯ノ又黒土間の「三千刈工区」に事業着手。整備の緊急性や優先度などを考慮しながら事業を推進している。当該

工藤 浅見内地区の車道区域に電柱が数本現存し、車両通行に支障をきたしている。早期の移転を。

町長 大規模な舗装改修工事の予算要求はしているが今年度の予算確保には至っていない。破損の激しい箇所については補修で対応をする。町は、県道期成同盟会のみならず、破損状況を報告し要望活動を続ける。

工藤 経年劣化が進み、路面亀裂箇所が多い。計画的に舗装改修工事が必要。



工藤 政彦

工藤 老朽化に伴い倒壊の恐れがある「火の見櫓」があるが、年次計画を組み撤去の必要はないか。

火の見櫓の老朽化に伴う危険性は

町長 当該県道のバイパス案は現時点では無いと伺っている。同路線の「三千刈工区」は、今年度秋口から用地測量、用地買収、支障物件移転を予定しており、令和6年度の工事完成を目指す。したがって湯ノ又公民館付近の拡幅改良工事は、同工区の完了を持って整備要望する。また、浅見内札ノ前地内「家の沢橋」橋梁整備は、今年度上部工架け替え工事実施のため、7月以降に入札広告し発注予定である。

工藤 湯ノ又地区公民館付近の拡幅改良・橋梁整備・浅見内札ノ前地内の橋梁整備などの工事が進んでいないが、県の方針としてバイパス案があるためか。

町長 当該県道のバイパス案は現時点では無いと伺っている。同路線の「三千刈工区」は、今年度秋口から用地測量、用地買収、支障物件移転を予定しており、令和6年度の工事完成を目指す。したがって湯ノ又公民館付近の拡幅改良工事は、同工区の完了を持って整備要望する。また、浅見内札ノ前地内「家の沢橋」橋梁整備は、今年度上部工架け替え工事実施のため、7月以降に入札広告し発注予定である。

工藤 湯ノ又地区公民館付近の拡幅改良・橋梁整備・浅見内札ノ前地内の橋梁整備などの工事が進んでいないが、県の方針としてバイパス案があるためか。

現地状況を確認し、事業の実施時期や範囲などを検討すると県から回答あった。

町の人口減少はどうか

あなたにかわって
聞きました
一般質問

町長 令和12年6,590人を目指す

町長 平成27年度に分析した「人口ビジョン」では、今後も人口減少率は拡大し令和7年には老人人口が生産年齢人口を上回り社会減が続く見通しであり、令和12年の人口は6,590人を目指し、男女比は男性46対女性54となっている。令和42年には4,387人を維持する事を目標にしている。

斎藤 5月号の広報では現在人口が8,530人、3,895世帯との発表があった。今後、5年後・10年後、人口減・少子高齢化はどうなる。



斎藤 晋



町の議員定数は現在14名

人口減により 議員数を削減する市町村が多い

斎藤 他市町村では人口減に伴い、議会議員の削減を実施する自治体が多い、県内他市町村の動向は。

町長 直近の県内市町村議会議員選挙において5市1町で、1人から4人の定数削減を実施している。また、次の選挙において2町で定数削減を実施する予定であり、今後も各市町村において人口減などに伴い定数削減の協議がなされていくものと思われる。

「五城館」「町民センター」の放送設備を改修すべき

斎藤 五城館・町民センターは式典や公式行事の会場である。式典や行事の途中、放送設備の「ハウリング」「音声の途切れ」などがあり、利用環境の向上を図るため設備の改修をすべき。

町長 五城館多目的ホールの音響機器は、平成29年度に47万円の町費を投じて設備を一新したが、昨年8月と今年の5月に管理者から音声の途切れなどの報告があり、現在納入業者により原因を究明している。町民センターは平成



47万円かけた五城館の放送設備だが

- 他に
- 五城館ホールを改修し収容人数を増やすべき
 - 町のメインストリートに活気を・街並みを明るく
 - 再任用職員を空き家対策のキーマンにすべき
 - 町長が主導して実施する事業やイベントは無いのか
 - 人口減で役場職員数はどうなる
 - などを質問しました。

14年に音響設備を改修し、修繕を続けながら使用している。今後の動向を踏まえながら、設備の更新を考えている。

土砂災害特別警戒区域への対応を

工藤 「グループホーム湯ノ越の家」「湯の越温泉」から住宅地へと広範囲にわたるレッドゾーン区域。標高200mの「湯ノ越山」の急斜面の崩落、地滑りを防ぐため保安林指定を望む。

町長 申請には、森林であって所有者の同意などが必要となる。土砂災害の防備にかかる特定公益的機能の達成を目的に、町が県知事に指定申請

街並みの景観を大切に

工藤 「中央線」の街路灯を吊り下げ型灯具に適切な、暖か味を感じ心と暖色系のLED球に変更を。

町長 先行して馬城橋に白色LED球を設置しているが、6月から試験的にオレンジ色のLED球に交換し、今までの「中央線」のイメージを保ちつつ照度を高めることができないう検討し決定したい。



オレンジ色の球には虫が寄りづらい

なんとになったべが！

令和3年度6月定例会一般質問より

あなたにかわって
聞きました

一般質問



松浦 真

環境条例の制定は

町長 今年度、環境保全に関する条例を
策定予定

松浦 旧恋地スキー場に行くトンネルを過ぎた場所にある太陽光パネルが今冬の積雪により破損している。清流の森や近隣に通う人たちのためにも景観的に改善すべきではないか。

町長 6月1日に電話確認したところ、破損した太陽光パネルは、5月31日から撤去作業に着手している。6月中には撤去作業を終える。

松浦 撤去した後はやり直すのか、それとも撤去したまま、その場所は空白にするのか。

住民生活課長 4箇所のうち2箇所は、撤去を終えた後、再度設置して稼働すること。

松浦 町として太陽光パネルなど自然環境や景観へのリスク削減に向けた条例制定の動きをすべきでは。

町長 太陽光発電設備などの設置を規制する条例は、全国



割れた太陽光パネル（5月下旬撮影）

で189の自治体により制定されているが、県内ではまだ制定されていない。

町では、本年度、環境保全などに関する条例と計画を策定する。

除雪会議の透明化へ

松浦 8月の除雪会議に向けて町民からの意見をオープンにする。内容は。

町長 令和4年5月23日に除雪課題検討会を開催し、前年度寄せられた要望、苦情などを業者へ伝え、その反省点や改善策などを話し合い、業者からは作業効率向上のための方法などの意見ももらい協議し、その内容をとりまとめて

6月1日から町のホームページで公開している。
町民の声を集約する手段として、無料通信アプリ（LINE）を活用し道路破損などに限らず除雪作業へ対する意見提供、情報収集に役立てる。

タブレット利用 に子どもの意見 反映を

松浦 令和3年の小中学校でのタブレット利用状況は、（週末の持ち帰り率、利用しての授業時間数、KPIの達成率など）

教育長 令和3年度の一日あたりの授業におけるタブレット

ト端末の活用時間は、小学校が1時間、中学校が1.4時間と目標を下回っているが、使うことが目的化しないように注視している。タブレットの活用は、児童生徒が主体的に、必要に応じて文房具のように使えることが望ましい。

松浦 子ども目線に立つ魅力的なICT利用法として、マインクラフトやスクラッチなどゲームを通じてプログラミングを学ぶこともできる。

様々な文房具もテストの点数だけを上げるためだけでなく、文章や、小説を書いたりすることができ。

子どもたちから使い方が提案できるような機会をつくる



6,000万円で購入したタブレットは子どもの意見をヒアリングするためにも有効的に利用すべき（タブレット充電保管庫）

問

アフターコロナを見据えた、観光・商工振興の取り組みを

1年前の答弁

若い起業者が増えている、自然環境と連携し町全体で観光客をもてなす機運を高め、再訪したい地域として魅力向上に努める。

現在

秋田県による「秋田県観光振興ビジョン」が策定され、当町を含む区域については、来訪者が非日常と感じる当町の日常文化に触れて楽しむ「生活観光」の推進が掲げられた。町としては、移住し起業した方や観光業、建築業など、様々な分野で活躍される方々を会員として構成する町観光物産協会と連携し、豊かな自然文化に囲まれる我が町の観光資源から、新たな「観光資産」を発掘する事業展開を模索することとしている。

問

学校給食の無償化は、若者の定住・移住や人口増に繋がる。学校給食の無償化は出来ないか

1年前の答弁

安心して子育てできる環境づくりを推進するうえでも、給食費の軽減を検討する。

現在

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症による生活への影響を考慮し、地方創生臨時交付金を活用した「学校給食費支援事業」により、全額補助しているため保護者負担はない。今後も学校給食費の軽減及び無償化について検討する。

問

森山の環境整備に対する町の考えは

1年前の答弁

森山森林公園一帯を町民の憩いの場とするため、有害鳥獣対策や遊歩道などの環境整備に引き続き努める。

現在

森山の有害鳥獣対策として、森林資料館道路とキャンプ場をつなぐ通路から脇道に入った場所に、クマ捕獲用の箱わな1基を設置している。遊歩道は定期的な点検・補修、草刈りを実施し機能維持に努めている。

記事の訂正

火葬場改修工事で「町内産資材の調達ができず実現していない」と掲載したが、その後町当局より「再度確認したところ、下請け業者が五城目森林組合から木材を調達し、増築建物の内装板材のほとんどで五城目産木材を使用した。」と説明された。



五城目産木材の活用が実現した火葬場工事



議会を傍聴しました

議会傍聴デビュー



坂谷 彩さん
(雀館)

今回の傍聴は小学校帰りの娘を連れて。小学生にとっては難しいやりとりの中にも、「町の子供が」など、自分に関わる言葉が聞こえると集中して聞いているようでした。

私自身2回目の傍聴でしたが、自分が暮らし、働き、子育てをしている町についての問題、課題を知ることができました。どんな議員さんがどんな質問をするのかを知るのは、有権者として

して必要なことですし、選挙の大切さも改めて実感できます。

また、議会を運営している方々にとっても、町民の傍聴が活発になることは良い刺激になるでしょう。

働き盛り、子育て盛りで忙しい時期ではありますが、私たちのような世代こそ町政にもっと関心を持ちたいところです。

傍聴してみたいけれどシステムがわからない、緊張して行けないという方もいらっしゃると思います。傍聴デビューは、お友達や家族と誘い合って行ってみるのをお勧めします。



(松浦 真)

がんばってます

成長し合える環境づくり



五城目第一中学校
生徒会長 伊藤さん

五城目第一中学校を活気のある学校にしていこうために生徒会活動に力を入れています。

私たち生徒会執行部は、あいさつ運動や様々な行事の企画・運営など、互いに成長し合える環境をつくることを目標とし、様々な取組を行ってきました。

最近では、夏の総体に向けての取り組みも行いまし



全校が一つになった激励会

た。メッセージを送り合っ

て気持ちを高めたり、放課後、部活動がある人に向けて、応援する言葉や曲を放送で流したりしました。それぞれの委員会や総体のムードが高まるように務めました。

市郡総体激励会では、全校が一つになり、総体に対する気持ちをより強くすることができたと思います。

また、全校生徒の意見をくみ取ることを目的とし、各学年に意見箱を設置しています。意見箱を利用する生徒が増えて、五中が活気のある学校になっていると感じています。

これからも五城目町立五城目第一中学校をよりよくするために、生徒会執行部として、いろいろなことに挑戦していきます。

編集

後記



この度、5月9日～13日まで4泊5日の新人議員研修を受講させていただきました。

滋賀県の大津市にある全国市町村国際文化研修所(国際文化アカデミー)には全国から79名の新人の議員が集まり地方自治体の制度の基本や地方議会制度について学び、自分が住んでいる自治体の条例や財政をテーマに積極的に意見交換会をしたり発表したりと有意義な研修となりました。

他市町村議員との交流もでき、大いに刺激を受けたがらの研修でした。

ここで学んだことを、これからの議員活動に活かして参りたいと思っております。

町議会広報「みんなの町議会」に於いても皆様から愛される読みやすい広報づくりに頑張って参ります。

議会広報編集委員会

副委員長 工藤 政彦

